日大豊山水泳部の軌跡　7

昭和 55（1980）年、56（1981）年に活躍した選手は、坂大平氏である。

2 年間連続で 200m 個人メドレー・400m 個人メドレーで優勝し、高校新記録を樹立した。

育友会新聞『ぶざん』第 35 号に坂氏の高校 3 年生の時のインタビュー記事がある。

坂大平君
インタビュー

夏期休暇の

お知らせ

中学の部

カメラ、写真材
（日大豊山学園
卒業ア

大谷

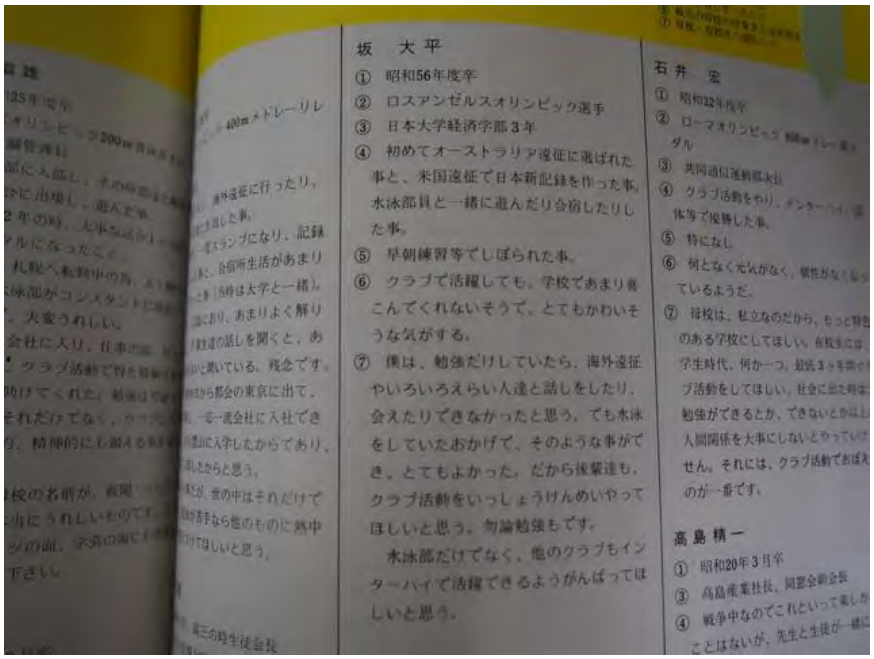
東京都千代
TEL（二次
神保町バス停

おすこやかに

会員訃報

指定　通学靴、体育シューズ
学用品、文具、掃除用具一式
の御用命は
日本大学豊山学園指定店

『三十年記念誌』にも坂氏のインタビュー記事がある。



坂　大平

① 昭和56年度卒

② ロスアンゼルスオリンピック選手

③ 日本大学経済学部3年

④ 初めてオーストラリア遠征に選ばれた事と、米国遠征で日本新記録を作った事。水泳部員と一緒に遊んだり合宿したりした事。

⑤ 早朝練習等でしぼられた事。

⑥ クラブで活躍しても、学校であまり喜んでくれないそうで、とてもかわいそうな気がする。

⑦ 僕は、勉強だけしていたら、海外遠征やいろいろえらい人達と話しをしたり、会えたりできなかったと思う。でも水泳をしていたおかげで、そのような事ができ、とてもよかった。だから後輩達も、クラブ活動をいっしょうけんめいやってほしいと思う。勿論勉強もです。

水泳部だけでなく、他のクラブもインターハイで活躍できるようがんばってほしいと思う。

石井　宏

① 昭和32年度卒

② ローマオリンピック

③ 共同通信運動部次長

④ クラブ活動をやり、インターハイ、国体等で優勝した事。

⑤ 特になし

⑥ 何となく元気がなく、個性がなくなっているようだ。

⑦ 母校は、私立なのだから、もっと特色のある学校にしてほしい。在校生には、学生時代、何か一つ、最低3ヶ年間クラブ活動をしてほしい。社会に出た時は、勉強ができるとか、できないとか以上に人間関係を大事にしないとやっていけません。それには、クラブ活動であばれるのが一番です。

高島精一

① 昭和20年3月卒

③ 高島産業社長、同窓会副会長

④ 戦争中なのでこれといって楽しかったことはないが、先生と生徒が一緒に

坂氏はインターハイは個人メドレーで優勝したが、高校 3 年生の日本選手権は 100m 自由形で優勝、昭和 59（1984）年のロサンゼルスオリンピックは 200m バタフライの代表選手として出場した、まさにオールラウンドな選手である。

下はオリンピック代表選手になった時のインタビュー記事である。

ぶざん

オリンピック代表になって

坂 大平

インタビュー

この記事で印象的なのは、当時の校長である第７代金子義夫先生との関係である。

坂氏は高校１年生までそれほど練習を頑張っていなかったということだが、校長先生が優勝を喜ぶ姿を見て、そのように強く選手を思う気持ちに答えようと頑張りはじめたということである。

同級生が停学処分を受けた際の金子校長の話を聞いて、胸にジーンときたという話もある。

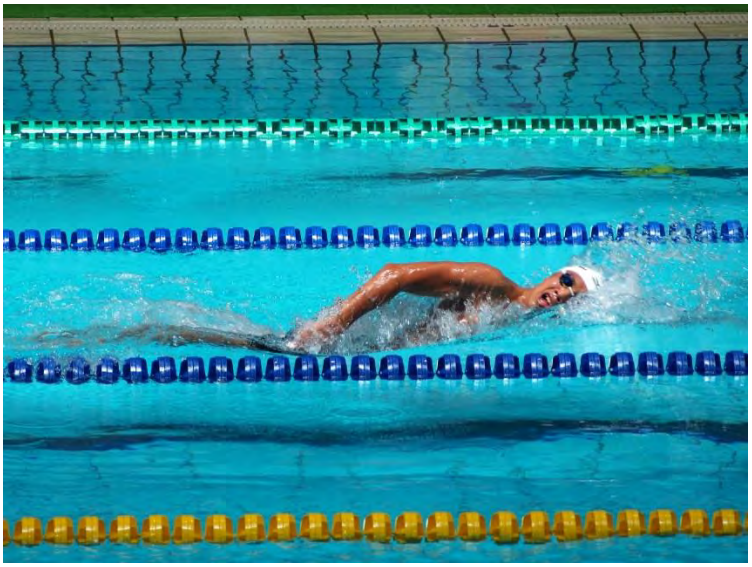
自分が日本記録を出したり、オリンピック選手になれたのは心から生徒のことを思ってくださる金子校長と会えたからではないか、という坂氏の言葉は教員として大変重みのあるものだと感じた。

坂氏は昭和 57（1982）年のアジア大会では、100m・200m バタフライ、400m リレー・800m リレー・400m メドレーリレーすべてで優勝するという快挙を成し遂げている。

本人のインタビュー記事にもあるが、井上先生の話によると坂氏は特にキックが強いとかプルが強いとかはなく、全体的なバランスの取れた選手ということであった。

ご子息である登暉氏も日大豊山水泳部に入り、100m～1500m まで泳げる選手としてインターハイの個人種目とリレー種目で活躍した。

力泳する登暉氏。



登暉氏は卒業式で日本大学学長賞（かつての総長賞）を受賞したが、親子そろっての受賞というのは珍しいのではないか。

一番左が登暉氏。

この頃の日大豊山のインターハイでの総合成績は総合第 2 位・第 3 位であり、昭和 57(1982)年には劇的な 3 回目の総合優勝を果たすことになる。